



## 序

著者	林 久喜
雑誌名	筑波大学附属駒場論集
巻	55
発行年	2016-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00150899">http://hdl.handle.net/2241/00150899</a>

## 序

本校は2002年以来、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、理系・文系の区別なく、全校生徒が先進的な Science を探求する活動を実施してきています。その中で、海外に所在する高校とは研究交流を中心とした生徒の研究発表や相互授業参加等を進めてきております。活動の一つとして、2015年12月10日に、台湾台中第一高級中学において本校生徒16名が参加して研究発表会が開催されました。奇しくもその日は、ノーベル賞授賞式の日で、昨年に引き続き、日本人2人がノーベル賞を受賞した喜ばしい日でもありました。両校の生徒には、いつの日か君たちの中からノーベル賞受賞者がでることを期待し、今日はその前哨戦であると、奮起を促しました。ノーベル賞受賞者の一人、大村智特別栄誉教授は、大学卒業後、定時制高校で化学と体育を教えたそうです。そこで、仕事に疲れながらも熱心に勉強に来る生徒のひたむきな姿、新しい知識を得て喜ぶ姿にふれ、学ぶことの大切さを再認識したといいます。また、うまく授業が進められない挫折感も味わい、勉強をし直すために職を離れて大学院に進学したそうです。教えることは教わること。教育実習生は教壇に立って教えてみて、教える何倍ものことを生徒から教わることになります。教育の大切さは私ども現場の教員が一番理解しているところであり、日々悩みながらも理想となる教育を求めて取り組んでおります。

本校は国立大学法人筑波大学の附属学校の一つとして、附属学校の中期目標として掲げられた「先導的教育拠点」、「教師教育拠点」、「国際教育拠点」をキーワードとした種々の活動を行っています。附属学校としての大学との連携強化、本校OBや筑波大学教員による社会貢献プロジェクト「筑駒アカデミア」による一般向けの講演会や本校生徒による小学生向け実験実習、「教員免許状更新講習」、「附属学校実践演習」による講習や公開授業の実施など、幅広い層を対象に本校の教員、生徒、OBが多様な活動を実施しています。

この論集は、本校における日常的な教育研究・教育実践の成果をまとめたものです。各教科が単位となって教科グループが数年間の期間で研究プロジェクトを実施し、その成果が毎年本論集で報告されています。今年はこれに加え、生徒部を構成する教員による研究プロジェクトで、SNSをテーマにした現状と課題を詳細に検討し、報告しています。一方、教員による個別研究では、「オンラインストレージを利用した共同作業報告」、「障害科学を題材としたゼミナール活動の実践報告」、「中学校におけるメンタルヘルスリテラシー教育の実践報告」、「超音波画像診断装置を用いた高校生筋厚測定の授業実践報告」、「現代日本文学や古文の原文と英訳文の対比から学ぶ英語の授業実践報告」、「歌や映画を活用した英語の授業実践報告」と多彩な実践活動報告が掲載されました。

この論集に掲載された内容が、関係各位の教育活動のご参考に少しでもなるならば幸いに存じます。加えて本校及び関係各位の教育実践のより一層の充実を図るため、本論集への忌憚のないご意見、ご批判、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。

2016年3月

筑波大学附属駒場中・高等学校

校長 林 久喜